

## 富来川南岸断層に沿う地震断層の発見

(2024.1.19)

現地調査（1月13日～14日）により、志賀町北部の富来周辺において、富来川南岸断層に沿う地表地震断層を発見した。地表変形は緩やかに南東側が撓み上がり、顕著な崖は伴っていない。上下変位量は概ね50cm程度。10～数10cm程度の左横ずれを伴う。断層周辺では著しい家屋被害が生じている。

下記のA地点、B地点をはじめ、少なくとも5地点で同様な変形が確認され、その範囲から断層長は3km以上と推定される。断層の位置はSARの干渉縞の不連続と矛盾はない。富来川河口の南岸の領家漁港付近が隆起しているため、海域へ続く可能性がある。

この断層は、海成段丘面高度の不連続を理由に、太田ほか（1976）などにより存在が指摘された。渡辺ほか（2015）は、改めてその存在を確認するとともに、さらに南部の志賀町福浦および赤住の沖約3～4kmにある兜岩沖断層に連続する可能性を指摘している。

なお、今回の調査で確認された左横ずれは、南北圧縮により生じたと解釈でき、GNSSの西方への水平移動量が富来で大きく（86.9cm）、志賀で小さい（8.6cm）ことと矛盾しない。

調査者：日本地理学会断層調査グループ 鈴木康弘（名古屋大学）・渡辺満久（東洋大学）

太田陽子・松田時彦・平川一臣（1976）：能登半島の活断層．第四紀研究，15，105-128．

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaqua1957/15/3/15\\_3\\_109/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaqua1957/15/3/15_3_109/_article/-char/ja/)

渡辺満久・中村優太・鈴木康弘（2015）：能登半島南西岸変動地形と地震性隆起．地理学評論，88，235-250． [https://www.jstage.jst.go.jp/article/grj/88/3/88\\_235/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/grj/88/3/88_235/_pdf/-char/ja)

### 富来川南岸断層の位置



### 富来川南岸断層に沿う地表地震断層 (A地点)



南東側（写真奥）が緩やかに約50cm相対的に隆起。10cm程度の左ずれを伴う。

### 断層の動きに伴って二次的に生じたクラック (A地点)



### 左横ずれ変位 (A地点)



南東を望む



北西を望む

### 富来川南岸断層に沿う地表地震断層 (路面の上下変位、B地点)



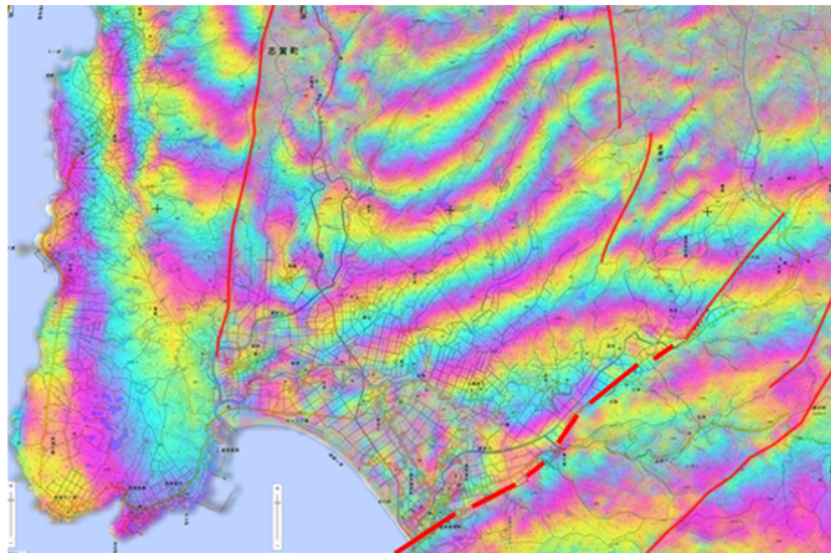
(北西を望む)



領家漁港南の海岸隆起（富来川南岸断層の南東側）



SAR干渉縞の不連続（赤実線）と富来川南岸断層（赤太破線）



JAXA・国土地理院 だいち2号 2023年12月6日—2024年1月3日（西から観測）